

東部大阪都市計画ごみ焼却場

四條畷市交野市ごみ処理施設整備事業に係る

事後調査報告書

(平成30年5月分地下水調査結果報告書)
(平成30年5月分陸域生態系調査結果報告書)

平成30年11月

四條畷市交野市清掃施設組合

1. 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地
 事業者の名称 四條畷市交野市清掃施設組合
 代表者の氏名 管理者 四條畷市長 東 修平
 主たる事務所の所在地 大阪府交野市大字私市3029番地1
2. 対象事業の名称
 東部大阪都市計画ごみ焼却場四條畷市交野市ごみ処理施設整備事業
3. 事業地の位置
 大阪府交野市大字私市3029番地外
4. 対象事業の実施状況
 調査時の運転の状況を表1に示す。

表1 調査時の運転の状況

日付	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11
調査実施日											
1号炉											
2号炉											

日付	5/12	5/13	5/14	5/15	5/16	5/17	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22
調査実施日											
1号炉											
2号炉											

日付	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	5/29	5/30	5/31
調査実施日									
1号炉									
2号炉									

5. 事後調査の内容
 調査項目、調査地点を表2及び表3に示す。また、調査地点の位置を図1に示す。

表2 事後調査の項目、調査地点、調査時期及び調査の方法（供用時）

調査項目		調査地点	調査期間及び頻度	調査方法	調査実施日
大項目	小項目				
大気質	熱回収施設煙突排ガスの排ガス量、硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん、塩化水素	熱回収施設の煙道	時期：供用開始後5年間 頻度：ばい煙の測定6回/年 (硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん、塩化水素)	サンプリング分析	—
	ダイオキシン類、水銀	熱回収施設の煙道	時期：供用開始後5年間 ダイオキシン類2回/年 水銀2回/年		—
	二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質	1地点（ひかりが丘配水場）	時期：供用開始後1年目*1 頻度：1週間/季 (1時間値)	自動測定器	—
	塩化水素、水銀、ダイオキシン類	事業地周辺の一般環境5地点	時期：供用開始後1年目*1 頻度：1週間/季	環境大気サンプリング	—
	風向風速	1地点（事業地）	時期：供用開始後1年目*1 頻度：1週間/季	風車型微風向風速計による方法	—
水質	SS、健康項目（ベンゼン・砒素・鉛・ふっ素・ほう素）、ダイオキシン類、濁度、電気伝導率	排水口1地点（敷地内排水最終楯） 河川1地点（天野川下流）	時期：供用開始後5年間 頻度：供用開始後1年目 6回/年 2年目以降2回/年*2	排水口：排水基準に係る検定方法 河川：公共用水域及び地下水の水質測定計画（大阪府）に示された方法等	—
地下水	健康項目（ベンゼン・砒素・鉛・ふっ素・ほう素）、ダイオキシン類	観測井2地点 周辺井戸1地点	時期：供用開始後5年間 頻度：供用開始後1年目 4回/年 2年目以降2回/年*2	「公共用水域及び地下水の水質測定計画」（大阪府）に示された方法等	平成30年 5月11日
騒音 振動 低周波音	騒音レベル 振動レベル 低周波音の音圧レベル	敷地境界4地点 周辺住居2地点	時期：供用開始後1年間 頻度：平日1回（24時間連続）	騒音：JIS Z8731 振動：JIS Z8735 低周波音：「低周波音の測定方法に関するマニュアル」に準拠	—
悪臭	臭気指数、特定悪臭22物質	熱回収施設の煙道及び敷地境界4地点	時期：供用開始後1年目及び5年目*3 頻度：1回/年（夏季）	臭気指数及び臭気排出強度の算定の方法（平成7年環境庁告示第9号）	—
陸域生態系	植物の生息状況（事業地内で確認されたカワヂシャ及びミコシガヤ）	事業地内	時期：移植後～供用開始後2年 頻度：春季（開花時期）	目視観察及び写真撮影	平成30年 5月18日

*1 供用開始後2年目以降については事後調査結果及びごみ焼却量の推移等を踏まえ、調査時期及び頻度を適宜見直す。

*2 共用開始後2年目以降については事後調査結果等を踏まえて、適宜見直す。

*3 供用開始後1年目の事後調査結果及び周囲の状況を踏まえ、調査時期及び頻度を適宜見直す。

表3 事後調査の項目、調査地点、調査時期及び調査の方法（供用時）

調査項目		調査地点	調査期間及び頻度	調査方法	調査実施日
大項目	小項目				
景観	自然景観 歴史的・文化的景観	3地点 磐船峡駐車場 北田原集会場前 ほしだ園地（星のブランコ）	時期：平成30年秋季 頻度：1回	写真撮影	—
文化財	文化財	国道168号に面する擁壁部分の眺望	時期：平成30年秋季 頻度：1回	写真撮影	—
廃棄物	種類、発生量 再生利用量、 処分量	施設内	時期：供用開始後5年間 頻度：1年間（年1回）	事業による廃棄物の処理実績を集計	—
地球環境	ごみ焼却量及び売電量	施設内	時期：供用開始後5年間 頻度：1年間（年1回）	事業による温室効果ガスの排出量及び売電量	—
大気質 騒音・振動人と自然との 触れ合いの活動の場	ごみ収集車等 交通量	施設内	時期：供用開始後5年間 頻度：2日/年	施設入口にてカウントもしくは搬出入記録等による	—

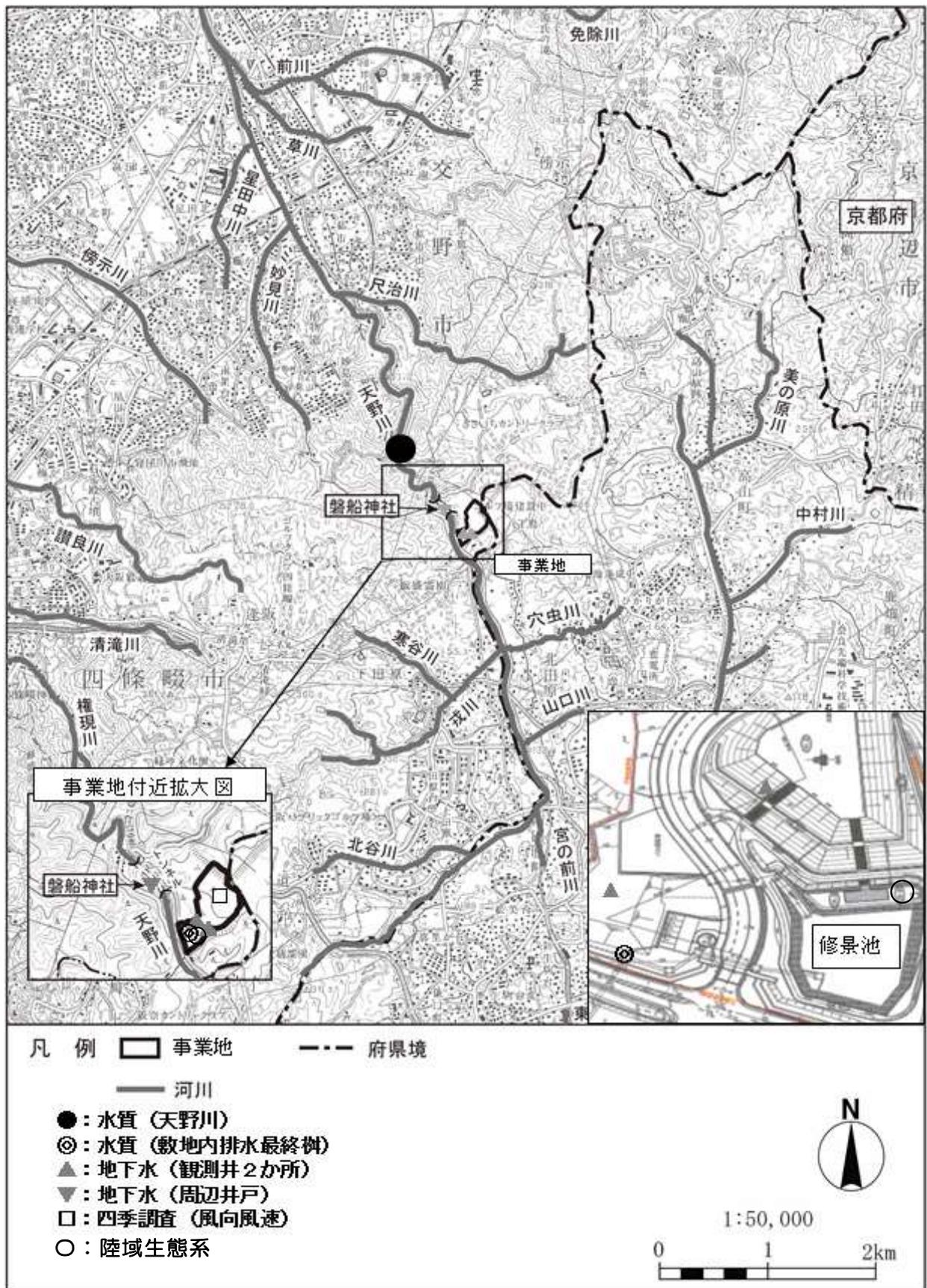


図1 供用時の事後調査地点（地下水、陸域生態系）

6. 調査結果

(1) 地下水

観測井（西側、東側）及び周辺井戸において、水質測定を実施した。
なお、観測井（西側、東側）及び周辺井戸の調査地点は図1に示す。

① 採水日

観測井（西側、東側） 平成30年5月11日

周辺井戸 平成30年5月11日

② 測定結果

観測井（西側、東側）の測定結果を表4、周辺井戸の測定結果を表5にそれぞれ示す。

③ 結果の検証

観測井（西）地点においてふっ素が0.84mg/L検出され環境基準値の0.8mg/Lを上回った。その他の地点では全ての項目で環境基準値を満足していた。

表4 測定結果（観測井（西側と東側））

区分	調査項目	単位	観測井						環境基準値
			冬季		春季		…	…	
			観測井(西)	観測井(東)	観測井(西)	観測井(東)			
現地調査項目	調査日	—	2月25日	2月25日	5月11日	5月11日			—
	調査時刻	—	16:40	13:30	15:00	14:15			—
	色	—	淡褐色	淡黄色	淡黄色	淡黄色			—
	外観	—	なし	なし	微濁	なし			—
	臭い	—	微硫化水素臭	なし	微硫化水素臭	なし			—
	水位（管頭から）	m	4.61	8.20	4.06	6.77			—
	水温	℃	14.5	13.5	24.3	17.9			—
	透視度	度	50以上	50以上	16	50以上			—
健康項目	鉛	mg/L	0.002	0.001	0.001	0.001未満			0.01以下
	砒素	mg/L	0.005	0.010	0.006	0.005			0.01以下
	ふっ素	mg/L	0.78	0.11	0.84	0.18			0.8以下
	ほう素	mg/L	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満			1以下
	ベンゼン	mg/L	0.001	0.001未満	0.001未満	0.001未満			0.01以下
その他	ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.48	0.047	0.070	0.012			1以下

表5 測定結果（周辺井戸）

区分	調査項目	単位	周辺井戸				環境基準値
			冬季	春季	夏季	冬季	
現地調査項目	調査日	—	2月25日	5月11日			—
	調査時刻	—	9:10	13:30			—
	色	—	なし	なし			—
	外観	—	なし	なし			—
	臭い	—	なし	なし			—
	水位（管頭から）	m	5.10	4.47			—
	水温	℃	12.2	14.4			—
	透視度	度	50以上	50以上			—
健康項目	鉛	mg/L	0.001	0.001未満			0.01以下
	砒素	mg/L	0.001未満	0.001			0.01以下
	ふっ素	mg/L	0.08未満	0.09			0.8以下
	ほう素	mg/L	0.1未満	0.1未満			1以下
	ベンゼン	mg/L	0.001未満	0.001未満			0.01以下
その他	ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.0050	0.00014			1以下

(2) 陸域生態系

事業地内で植物の生息状況を目視観察及び写真撮影を実施した。
 なお、調査地点は図1に示す。

①目視観察及び写真撮影日

カワヂシャ 目視観察日：平成30年5月18日
 写真撮影日：平成30年5月18日
 ミコシガヤ 目視観察日：平成30年5月18日
 写真撮影日：平成30年5月18日

②調査結果

カワヂシャ、ミコシガヤの調査結果を表6に示す。

③結果の検証

カワヂシャは年越草ではあるが、平成29年に開花し結実した後、枝は枯れたが種子の散布は確認した。株と種子の入った土壌をそのまま修景池に移設したが、平成30年5月時点では発芽しなかった。発芽しなかった原因としては、移設した土壌が完全に水に浸かっていたこと。また、移設する時に株の向きを確認しなかったため、株の向きが悪かったことが理由の一因と考えられる。今後の対応として、土壌を掘り返し、修景池及びプランターで水分量をいくつかに分けて発芽するか検証する。ミコシガヤは生育していることが確認できた。

表6 調査結果（目視観察）

生物の種類	事後調査結果		
	環境保全措置の内容	生育状況（経過状況）	写真の有無
カワヂシャ	供用開始前の平成30年1月10日に修景池に移植した。	確認できない。	K
ミコシガヤ	供用開始前の平成30年1月10日に修景池に移植した。	高さ50cm程度で約20本が生育している。	M

写真結果

	K		M	
平成30年 1月10日 移植完了				
平成30年 5月18日				